

# 蓮田市第6次総合振興計画 序論及び基本構想（たたき台）

令和8年3月



## 《 目 次 》

第Ⅰ編 序論.....	1
第1章 計画の概要.....	2
1. 計画策定の趣旨.....	2
2. 計画の構成と期間.....	3
3. 計画策定の基本的な考え方.....	4
第2章 計画の背景.....	5
1. 蓮田市を取り巻く時代潮流等.....	5
2. 蓮田市の概況.....	7
3. 市民の意見.....	13
4. 第5次総合振興計画の総括.....	19
第Ⅱ編 基本構想.....	23
第1章 まちの将来像とまちづくりの理念.....	24
1. まちの将来像.....	24
2. まちづくりの理念.....	25
3. 人口の将来展望.....	26
第2章 土地利用構想.....	28
第3章 基本政策.....	32
第Ⅲ編 前期基本計画.....	
施策体系図.....	
分野別政策・施策.....	
資料編 .....	

## 第 I 編 序論

# 第1章 計画の概要

## 1. 計画策定の趣旨

総合振興計画とは、地域における総合的かつ計画的な行政運営を図るための重要な指針を、長期的な展望に基づいて定めるものであり、市政運営のあらゆる施策の根幹をなす最上位計画です。

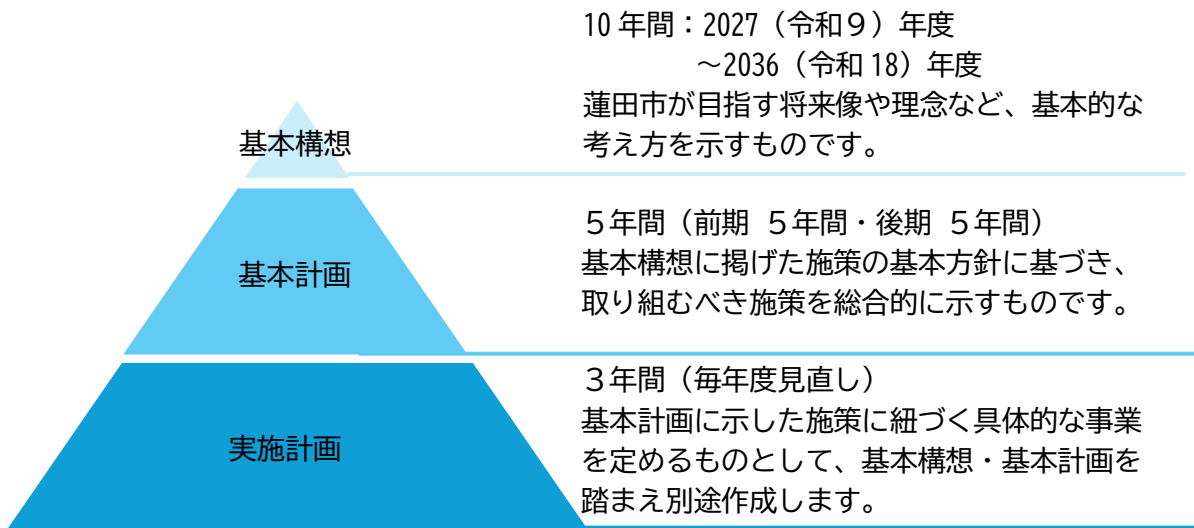
本市では、2018（平成30）年度から2027（令和9）年度までの10年間を計画期間として、第5次総合振興計画を策定し、市の将来像「四季かおる つながり 安心 活きるまち」の実現を目指し、多様な分野において着実な歩みを進めてまいりました。

しかしながら、今日、本市を取り巻く社会経済情勢は、これまでにないスピードと規模で激しく変化しています。少子高齢化・人口減少社会の本格化に加え、デジタル技術の急速な進展、大規模災害への備えや多様性を尊重する社会への移行など、行政が直面する課題は複雑化・高度化しています。このような先行き不透明な時代にあって、不測の事態や社会構造の変化に柔軟かつ的確に対応し、市民の皆様が将来にわたって安全・安心に、そして自分らしく暮らし続けられるまちを創り上げるためには、次代を見据えた新たな指針が不可欠です。

そこで本市では、第5次総合振興計画の成果と課題を正しく分析し継承した上で、新たな時代の要請に応えるべく、ここに「蓮田市第6次総合振興計画」を策定するものです。

## 2. 計画の構成と期間

本計画は、「基本構想」「基本計画」「実施計画」で構成します。



	R 9	R 10	R 11	R 12	R 13	R 14	R 15	R 16	R 17	R 18	R 19
基本構想 (10年間)	基本構想：令和9～18年度										次期総合振興計画
基本計画 (前期・後期各5年間)	前期基本計画：令和9～13年度					後期基本計画：令和14～18年度					
実施計画 (3年間、毎年度見直し)	令和9～11年度		(毎年度見直し)								

### 3. 計画策定の基本的な考え方

総合振興計画は、市政運営の最も基本となる計画であり、長期的な展望とともに、今後のまちづくりに関する取組を総合的かつ体系的にまとめたものです。

計画の策定にあたっては、以下の点を基本的な考え方と位置づけました。

#### ① 柔軟性の高い計画づくり

第5次総合振興計画との連続性に留意しつつ、**激甚化・頻発化する自然災害**や時々刻々と変化する社会情勢に**的確かつ迅速**に対応できる柔軟な計画づくりを行います。

#### ② 市民協働による計画づくり

審議会や市民意識調査、小中学生アンケート、市民会議、パブリックコメントの実施など、市民参画の機会を多様な形で設けることにより、市民の視点を取り入れた計画を策定します。

#### ③ 分かりやすい計画づくり

将来を見据え、何に重点的に取り組むのか、戦略的に実施していく施策が分かりやすい計画づくりを行います。

## 第2章 計画の背景

### 1. 蓮田市を取り巻く時代潮流等

#### (1) 人口減少・少子高齢化

2025（令和7）年におけるわが国の総人口は、1億2,433万690人（住民基本台帳人口、1月1日現在）であり、10年前の2015（平成27）年と比較して約390万人の減少となりました。国によれば、日本の総人口は今後も減少傾向で推移し、2070（令和52）年には8,700万人となるものと推計されています。

厚生労働省によれば、2024（令和6）年の出生数は68万6,061人であり、統計開始以来、過去最少を更新しました。少子化傾向に歯止めがかからない深刻な事態を受け、国は「こどもまんなか社会」の実現を掲げ、こどもが健やかに成長できる環境の提供や、結婚・妊娠・出産・子育てに夢や希望を感じられる社会の構築、少子化の克服に向けた政策を強力に推進しています。

また、2025（令和7）年の高齢化率は28.9%であり、2015（平成27）年と比較して3.3ポイントの上昇となっています。高齢化率は今後も上昇傾向で推移し、2070（令和52）年には38.7%となるものと推計されています。

このような人口減少と高齢化の急激な進行は、経済の停滞や地方自治体の財政状況の悪化を招くだけでなく、地域コミュニティの担い手不足など、社会経済のあらゆる側面に多大な影響を及ぼすものと懸念されています。

#### (2) 安全・安心な暮らしへの意識の高まり

わが国では、近年、大規模な地震や激甚化・頻発化する風水害が相次いでおり、安全・安心への意識はかつてないほどに高まっています。特に、令和6年8月に「南海トラフ地震臨時情報」が初めて発表されるなど、巨大地震発生 of 切迫性は新たなフェーズを迎えており、一刻の猶予もない備えが不可欠となっています。こうした中、行政による「公助」の強化はもとより、市民一人ひとりの「自助」、地域で支え合う「共助」が密接に連携した、実効性の高い地域防災力の向上が改めて求められています。

また、高度成長期以降に集中的に整備されたインフラが今後一斉に老朽化することから、適切な維持管理・更新を推進していく必要があります。

さらに、国内の刑法犯認知件数、交通事故発生件数は、ともに減少傾向にあるものの、近年ではインターネットを利用した犯罪や特殊詐欺などが増加しています。警察などの関係機関や地域と連携し、人々の防犯意識を高めながら、子どもから高齢者まで誰もが安全で安心に暮らせる環境をつくることが求められています。

### (3) DX（デジタル・トランスフォーメーション）の進展

インターネットをはじめとした ICT（情報通信技術）の著しい発展や AI 技術の活用などにより、社会経済全体から人々の日常生活に至るまで、大きな変革が生じています。特に、世界的な感染拡大が見られた新型コロナウイルス感染症は、社会経済活動や人々の日常的な行動に非常に大きな影響を及ぼし、キャッシュレス決済やネットショッピング、テレワーク、オンライン授業など、生活のあらゆる場面でオンライン化が急速に進展しました。こうした暮らしや働き方、学び方の変革を背景として、ヒトやモノの流れが大きく変化し、人々の居住地選定や企業の立地選定の自由度が増えています。

国は、2021（令和3）年にデジタル庁を設置し、“誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化”の実現を目指しています。あわせて、ICTを活用して地方を活性化することを目的に「デジタル田園都市国家構想」を掲げ、デジタル基盤の整備やデジタル人材の育成・確保などを通じ、デジタルの力による社会課題の解決と地方の魅力の向上を図るとともに、誰もがデジタルの恩恵を享受することで、豊かさを実感できる社会をつくることとしています。

### (4) ウェルビーイング（Well-being）の重視

2024（令和6）年の日本人の平均寿命は、男性が81.09年、女性が87.13年となっており、わが国は「人生100年時代」を体現する世界屈指の長寿国となっています。この未曾有の長寿社会において、100年という長い人生を充実させる生活の質（クオリティ・オブ・ライフ）への関心は、かつてないほど高まっています。

また、近年、ウェルビーイング（Well-being）を重視する考え方が国内でも広まりつつあります。これは、一人ひとりの多様な価値観や生き方が尊重され、誰もが自分らしく持続的な幸福を実感できる状態を目指すものです。わが国では、東京都荒川区のGAH（荒川区民総幸福度）の提唱をはじめ、自治体で先駆的な取組が進められてきました。企業や経済界の関心も高まっており、国では、国民のウェルビーイング（Well-being）を高めるための調査・研究や政策展開が図られています。

個人のウェルビーイング（Well-being）や幸福のかたちは多様であるものの、自治体において重要なことは、幸福の土台となる社会保障、教育、雇用などに関するセーフティネットを整えるとともに、コミュニティやつながりを創出していくことといわれています。

## 2. 蓮田市の概況

### (1) 地勢

本市は都心から 40km 圏内の埼玉県南東部に位置し、総面積 27.28 km<sup>2</sup>で南北に長く、概ね平坦な地形となっています。北は久喜市、東は白岡市、南はさいたま市及び上尾市、西は伊奈町及び桶川市と接しており、都心のベッドタウンとして戸建て住宅を中心とした宅地開発が進められてきました。

市内には、元荒川、綾瀬川など大小の河川や見沼代用水、また県自然環境保全地域に指定されている黒浜沼や山ノ神沼など豊かな水辺環境があります。

恵まれた自然環境は古来より人々の営みを支え、縄文時代前期の標式遺跡として知られる国史跡「黒浜貝塚」をはじめ、「綾瀬貝塚」や「雅楽谷遺跡」などがあり、県内でも有数の埋蔵文化財の宝庫となっています。現在では、これら歴史資源を活かした「うたやの森フェスティバル」や、国選択無形民俗文化財「閨戸の式三番」など、市民による文化活動・文化継承も活発に行われており、郷土への愛着と誇りを育む礎となっています。

交通面では、JR 宇都宮線蓮田駅から湘南新宿ラインで新宿駅まで約 40 分、上野東京ラインで東京駅まで約 45 分でそれぞれ直通運転されています。また、国道 122 号や主要地方道さいたま栗橋線などの幹線道路を軸に、南北の交通アクセスが良好となっています。東北自動車道蓮田サービスエリアには、スマートインターチェンジが整備・拡充され、都心へのアクセスが向上したほか、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）は、成田国際空港周辺まで整備が進み、東西への移動の時間短縮効果などが期待されています。

《近隣市も含め蓮田市の広域的な利便性が理解できる図を作成し、掲載します》

## (2) 沿革

蓮田市の歩みは、約3万年前の旧石器時代まで遡ります。市内からは当時の石器が出土しているほか、縄文時代から古墳時代にかけての遺跡が発見されており、太古よりこの地が居住に適した地であったことを物語っています。縄文時代には「黒浜貝塚」や「関山貝塚」が形成され、これらは土器の型式名（黒浜式・関山式）として考古学史にその名を刻む重要な遺跡となっています。

中世・近世には、元荒川や綾瀬川に囲まれた肥沃な農耕地として発展し、江戸時代には見沼代用水の開削に伴い、水運を活かした物流の要所としても活気づきました。

近代における転換点は、1885（明治18）年の日本鉄道（現 JR 宇都宮線）蓮田駅の開業です。これにより東京との結びつきが強まり、交通の要衝としての地位を確立しました。戦後の1954（昭和29）年、1町2村（蓮田町・黒浜村・平野村）が合併して新制「蓮田町」が誕生。高度経済成長期には都心のベッドタウンとして人口が急増し、1972（昭和47）年10月1日、埼玉県で38番目の市として市制を施行しました。

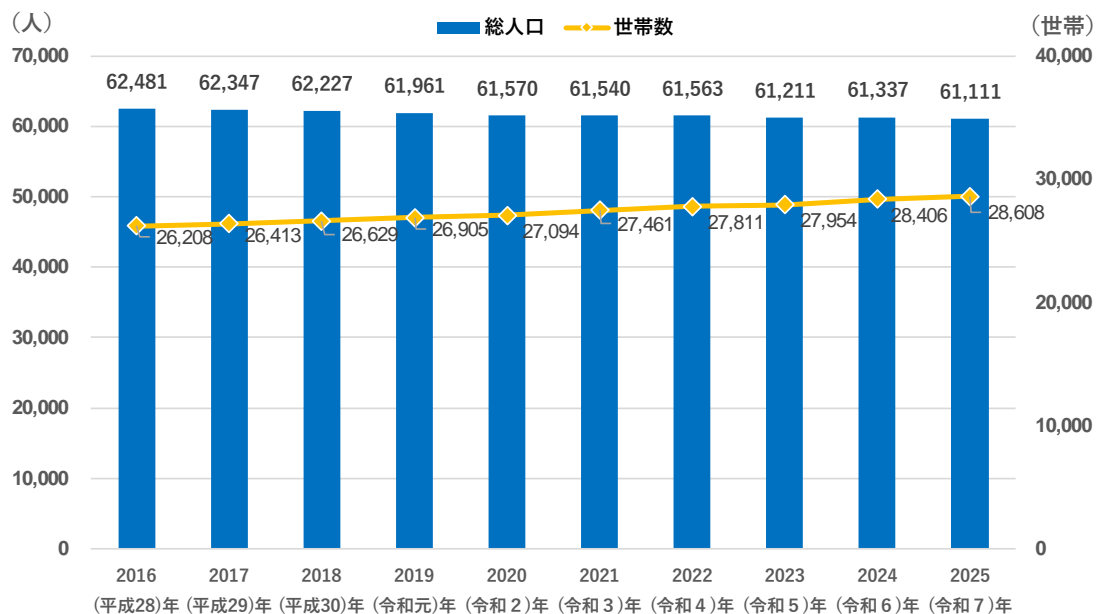
近年では、東北自動車道蓮田スマートインターチェンジの整備や蓮田駅西口の再開発など、都市機能のさらなる向上が進み、2022（令和4）年には市制施行50周年を迎えました。3万年前から選ばれてきた「住みやすさ」の記憶を礎に、蓮田市は豊かな自然と利便性が調和する街として、今も新たな歴史を刻み続けています。

《本市の自然的・文化的特性や魅力が伝わるよう、  
史跡や民俗文化、駅やサービスエリアなどの主要施設の写真を掲載します》

### (3) 人口

#### ① 総人口・世帯

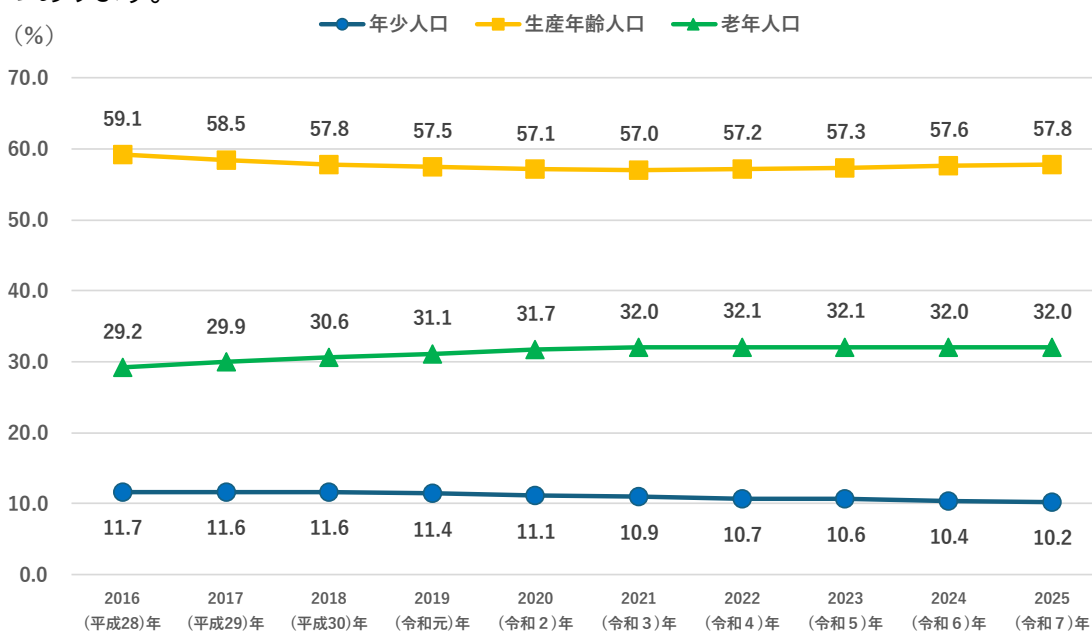
総人口は緩やかに減少し、2025（令和7）年には61,111人となっています。一方、世帯数は漸増傾向にあり、世帯当たり人員数が減少を続けています。



資料：蓮田市「人口推移表（月別）」（各年1月1日時点）

#### ② 年齢3区分別人口

年少人口（0～14歳）割合は一貫して減少する一方、生産年齢人口（15～64歳）割合は微減から横ばい傾向となり、老年人口（65歳以上）割合は微増から横ばい傾向に変化しつつあります。

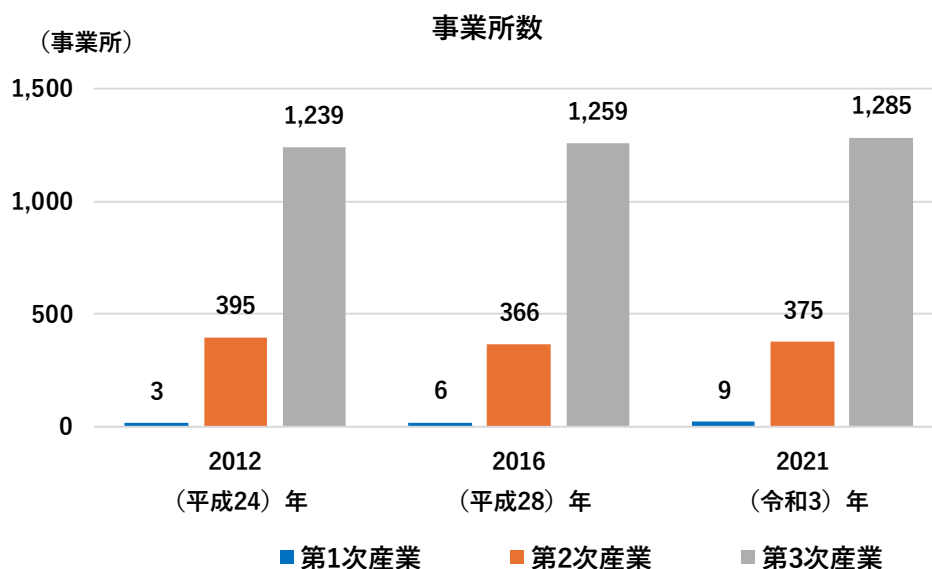


資料：蓮田市「人口推移表（月別）」（各年1月1日時点）

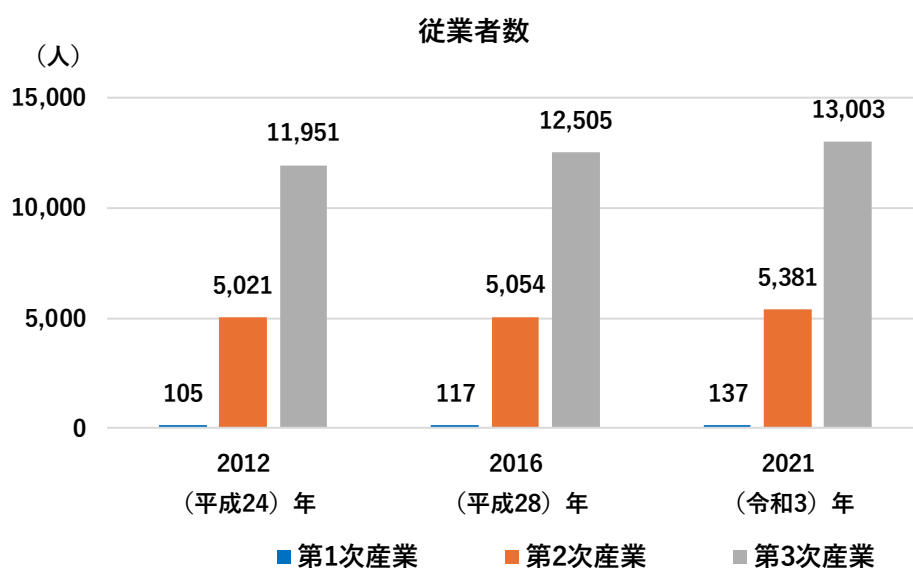
#### (4) 産業

##### ① 事業所数及び従業者数

産業別事業所数は、第1次産業と第3次産業は増加傾向で、一方、第2次産業は概ね横ばい傾向となっています。また、産業別従業者数は、いずれも増加しています。



資料：経済センサス-活動調査

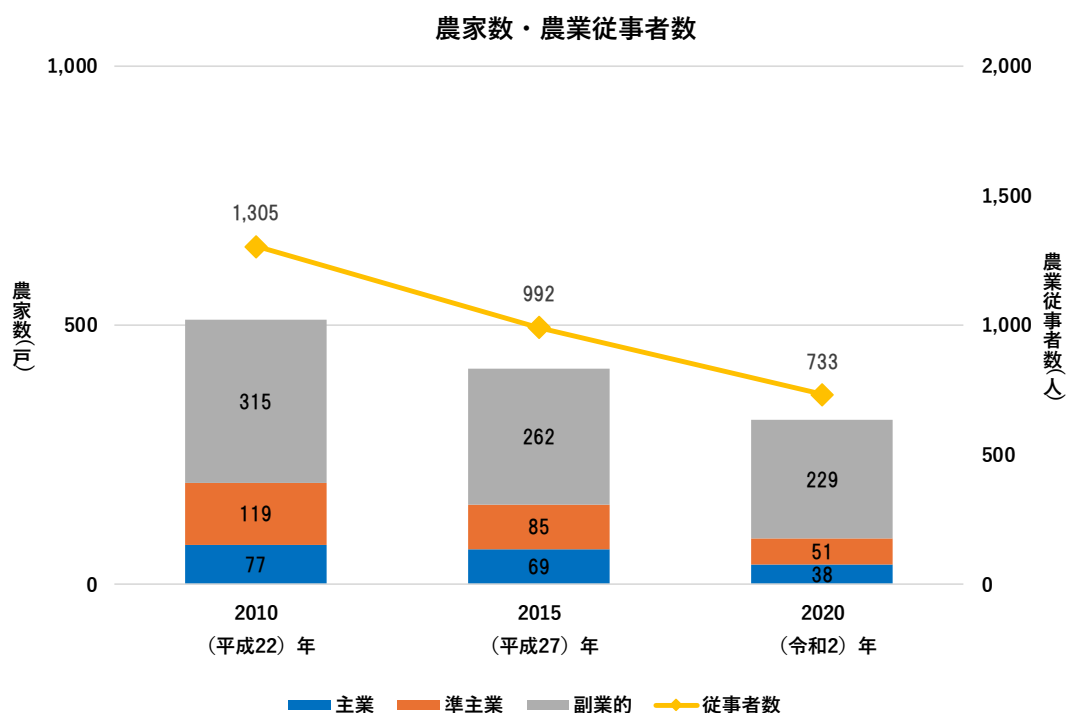


資料：経済センサス-活動調査

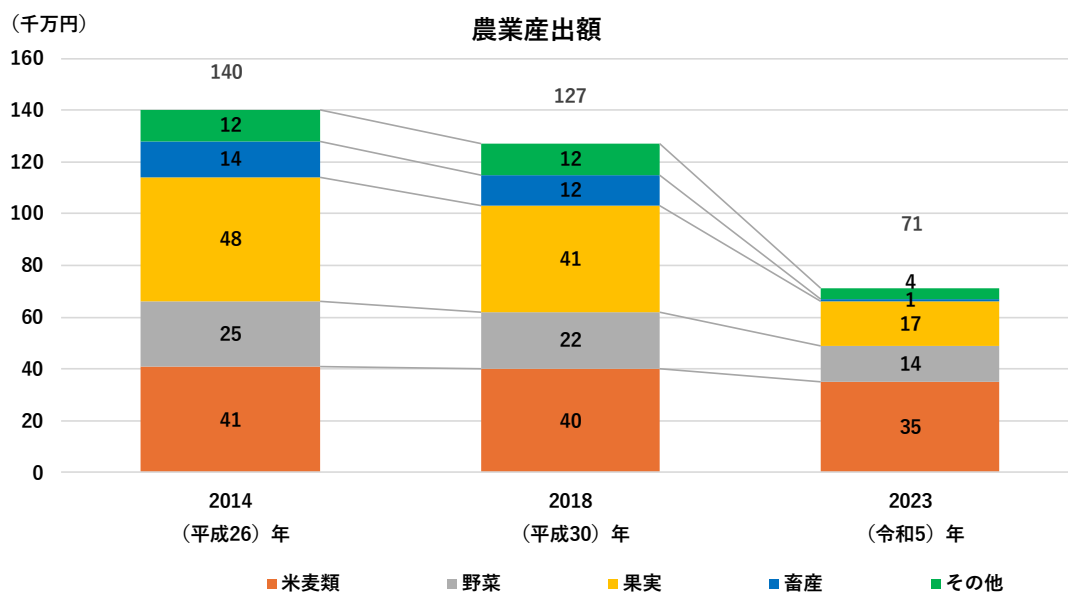
## ② 農業の状況

農家数は減少傾向にあります。特に準主業農家（農外所得が主（農家所得の50%未満が農業所得）で、調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる農家）の減少率が高く、生産年齢人口の農家離れが進んでいます。

また、農業産出総額が、2018（平成30）年からの5年間で大きく減少しています。



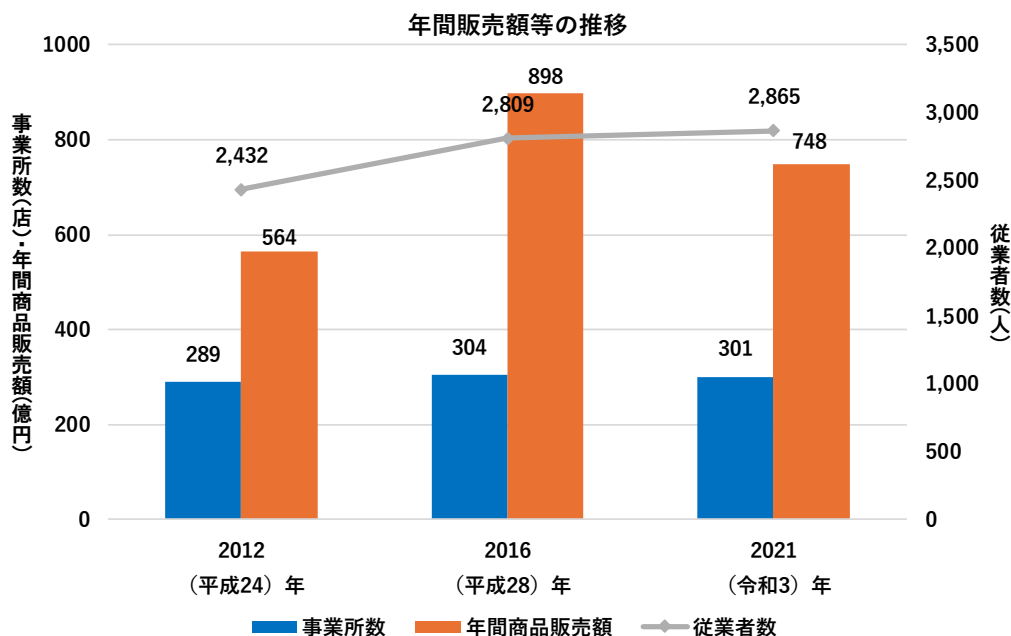
注) 従事者数については、統計における把握手法の変更に伴い、資料：農林水産省「農林業センサス」  
 2010（平成22）年及び2015（平成27）年は販売農家における従事者数、  
 2020（令和2）年は農業経営体における従事者数となっている。



資料：農林水産省「市町村別農業生産額（推計）」

### ③ 商業の状況

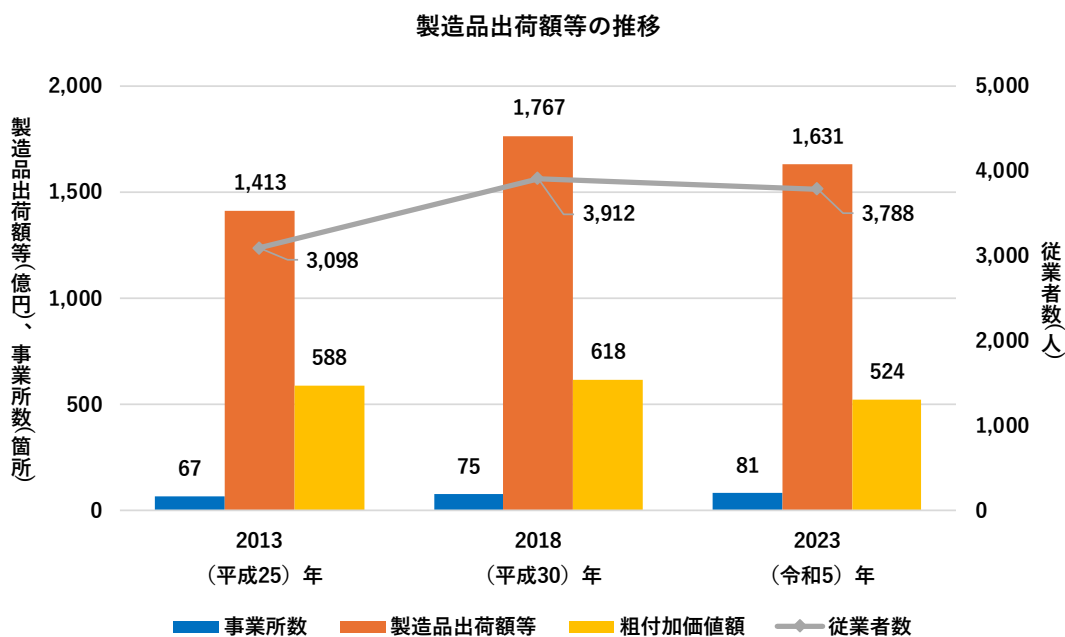
商業事業所数は横ばいで、一方、従業者数は増加傾向となっています。2016（平成28）年には年間商品販売額が898億円に達しましたが、その後、減少に転じています。



資料：経済センサス-活動調査

### ④ 製造業の状況

製造事業所数は増加傾向、従業者数は増加から微減傾向にあります。製造品出荷額等及び粗付加価値額は、増加傾向にあったものの、2023（令和5）年には減少しています。



資料：工業統計調査、経済構造実態調査

### 3. 市民の意見

#### (1) 市民意識調査結果（主要な回答）

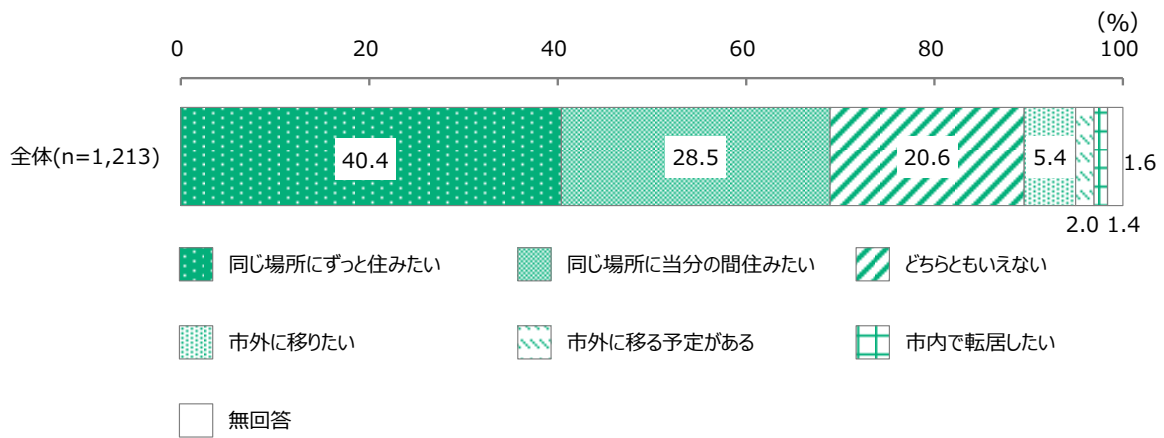
##### ① 調査概要

- ・ 調査期間 2025（令和7）年6月20日～7月23日
- ・ 調査対象 2025（令和7）年5月1日時点で市内にお住まいの16歳以上の市民4,000人
- ・ 抽出方法 年齢構成が反映されるよう調整のうえ、住民基本台帳より無作為抽出
- ・ 調査方法 郵送による調査票の配布（回収は、郵送またはWebフォームへの記入の選択制）
- ・ 回収結果 1,213票（用紙802票、Web411票）、有効回収率30.3%

##### ② 主な調査結果

###### ■ 蓮田市への定住意向

蓮田市に住み続けたい（「同じ場所にずっと住みたい」と「同じ場所に当分の間住みたい」の合計）と考える市民が約7割となっています。



### ■蓮田市のまちの魅力

蓮田市の魅力については、「都心に近く便利な交通アクセス」が約4割で最も多く、次いで「災害の少ない暮らしやすい土地柄」や「元荒川、黒浜沼、山ノ神沼、桜並木などの豊かな水と緑」などが挙げられています。

(上位5項目)

順位	項目	回答割合
1	都心に近く便利な交通アクセス	41.6%
2	災害の少ない暮らしやすい土地柄	36.4%
3	元荒川、黒浜沼、山ノ神沼、桜並木などの豊かな水と緑	27.4%
4	緑が多く閑静な住宅地	14.4%
5	昔から残る田園風景	12.9%

### ■将来の蓮田市

将来の蓮田市については、「安全で安心である」が6割を超えて最も多く、次いで「便利である」や「居心地がよい」が挙げられています。

(上位5項目)

順位	項目	回答割合
1	安全で安心である	65.5%
2	便利である	40.2%
3	居心地がよい	33.3%
4	快適である	27.0%
5	穏やかである	14.9%

### ■今後、重点的に取り組むべき施策

「生活環境の整備・防災」が約6割で最も多く、次いで「保健・福祉・医療の充実」や「都市基盤の整備」が挙げられています。

(上位5項目)

順位	項目	回答割合
1	生活環境の整備・防災	63.9%
2	保健・福祉・医療の充実	61.2%
3	都市基盤の整備	39.9%
4	産業の振興・消費生活の充実	36.4%
5	教育・文化行政	24.2%

## (2) 小・中学生アンケート結果（主要な回答）

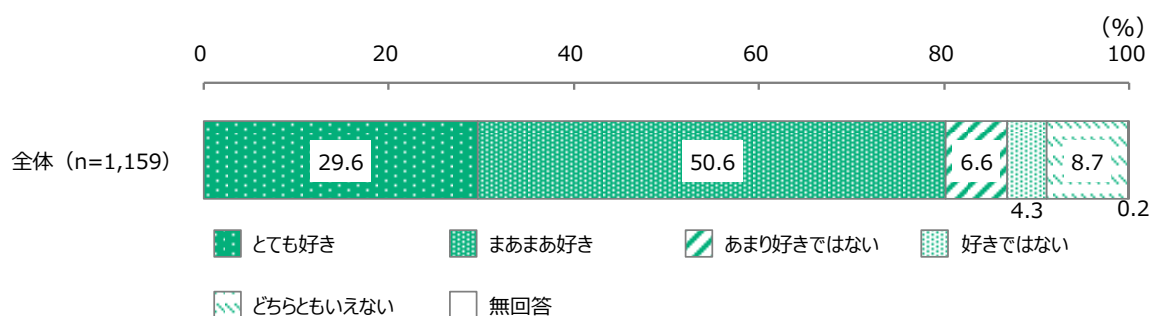
### ① 調査概要

- ・ 調査期間 2025（令和7）年6月16日～7月16日
- ・ 調査対象 蓮田市内の小中学校全校に在籍する小学6年生と中学2、3年生
- ・ 調査方法 児童・生徒一人ひとりが所有しているタブレットを使用し、WEBより回答
- ・ 回収結果 1,159票/1,298票（有効回収率89.3%）

### ② 主な調査結果

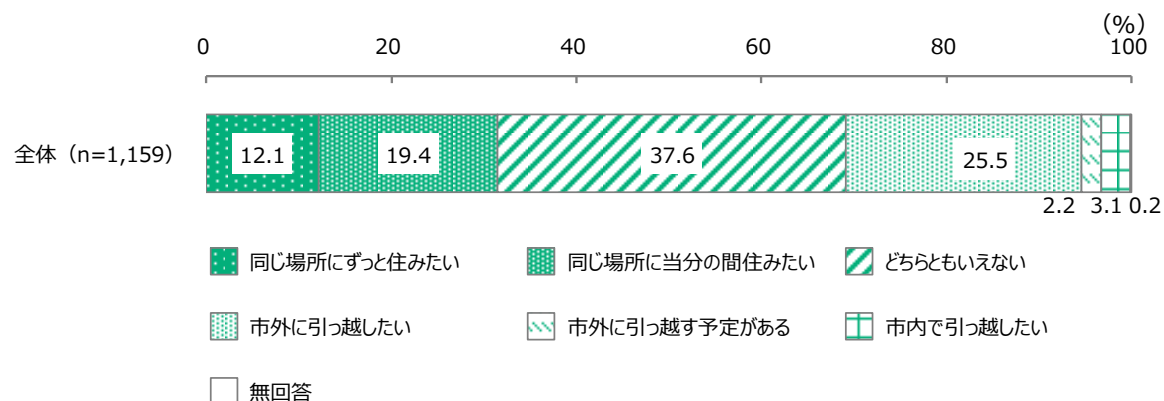
#### ■蓮田市への愛着

蓮田市が好き（「とても好き」と「まあまあ好き」の合計）という小中学生は約8割となっています。



#### ■蓮田市への定住意向

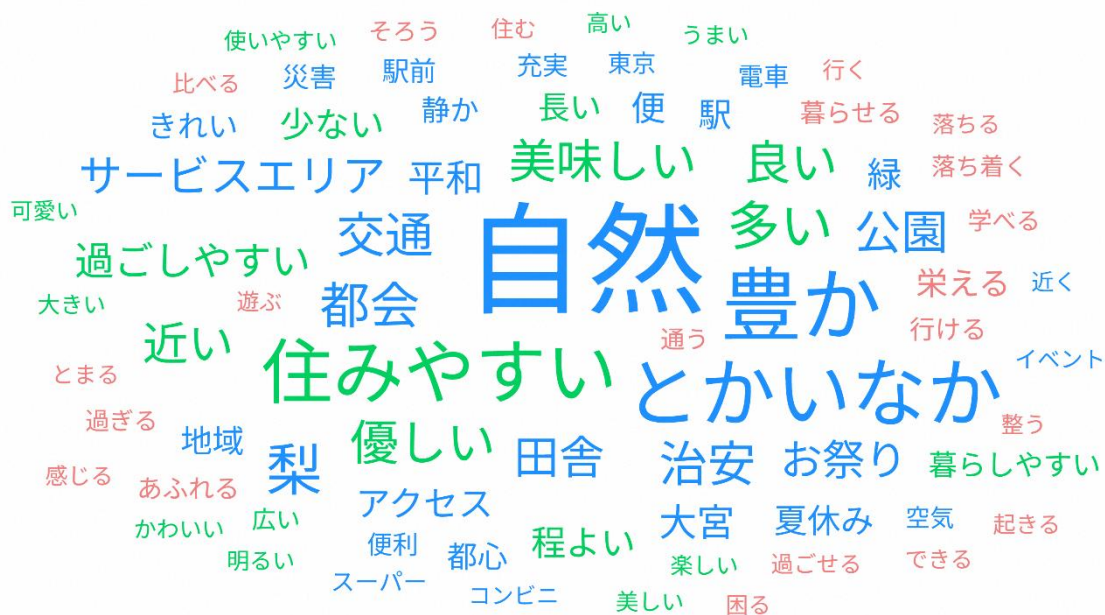
蓮田市への定住意向について、「どちらともいえない」が約4割で最も多くなっています。定住意向がある（「同じ場所にずっと住みたい」と「同じ場所に当分の間住みたい」の合計）は約3割、転出意向がある（「市外に引っ越したい」と「市外に引っ越す予定がある」の合計）も約3割で同程度となっています。



## ■蓮田市のよいところ

蓮田市のよいところとしては、「自然が豊かである」、「住みやすい」、「とかいなか」、「交通アクセスが良い」などの意見が挙げられています。

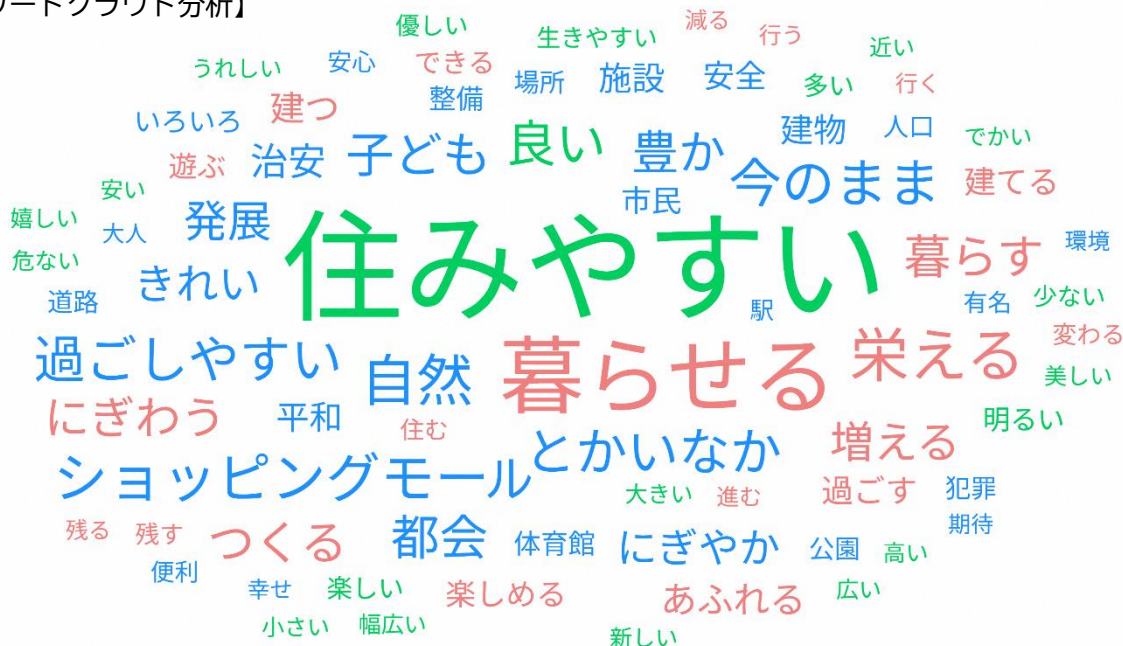
### 【ワードクラウド分析】



## ■10年後、蓮田市はどんなまちになっていたらよいか

未来の蓮田市については、「自然が残っていてほしい」、「今のままがいい」、「ショッピングモールがあるまちがいい」「もう少し都会になってほしい」、「みんなが暮らしやすいまちがいい」などの意見が挙げられています。

### 【ワードクラウド分析】



### (3) 蓮田市総合振興計画市民会議における意見

#### ① 実施概要

この市民会議は、「蓮田市第6次総合振興計画」の策定の取組の一環として、市民の視点から意見やアイデアをいただき、今後のまちづくりに活かしていくことを目的に開催しました。

回数	日程	場所	テーマ
第1回	2025（令和7）年 8月30日（土） 9時30分～11時30分	蓮田市役所西棟 第3・第4会議室	・わたしの幸せ ・蓮田市の良いところ・気になるところ
第2回	9月21日（日） 9時30分～11時30分	蓮田市役所西棟 第3・第4会議室	・幸せを感じられるまちの姿（状態） ・幸せ実感のために活かせるもの・改善が必要なもの

#### ② 実施結果

それぞれのテーマについて、主に次のような意見が挙げられました。

##### ■わたしの幸せ

<p>〈キーワード〉 自然、健康、つながり、家族・仲間、趣味・楽しみ、食、住環境・交通・買い物、生きがい、仕事、安全安心、教育学習 など</p>
--

##### ■蓮田市の良いところ・気になるところ

<p>〈良いところ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都心へのアクセスが良い</li> <li>・自然が豊か</li> <li>・災害が少ない</li> <li>・治安が良い</li> <li>・静かである</li> <li>・祭りやイベントが多い</li> <li>・梨が特産物、米もとれる</li> <li>・飲食店は多いが地域によって偏りがある</li> <li>・人が良い</li> <li>・はすぴいがかわいい</li> </ul>	<p>〈気になるところ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の移動が不便</li> <li>・バスのルートや本数が少ない</li> <li>・歩道が狭く、穴や凹み、雑草</li> <li>・駅前が寂しい</li> <li>・警察署がない</li> <li>・大きな病院が少ない</li> <li>・地域活動の担い手の高齢化</li> <li>・祭りやイベントの継続</li> <li>・横のつながりがない</li> <li>・世代によってはつながりが希薄</li> </ul>
---	---

■幸せを感じられるまちの姿（状態）

〈キャッチフレーズ〉

- ・「みんな元気で楽しいまち」
- ・「高齢者を元気に！集まる街 蓮田」
- ・「行きたいところに行ける街 蓮田」
- ・「とかいなかの理想郷 蓮田」
- ・「何もない。でも未来が見える街」
- ・「みんながつながれる街」
- ・「つながりを大切にするまち」

■幸せ実感のために活かせるもの・改善が必要なもの

- ・運動のできる公園や施設を身近につくる
- ・道路の整備やコミュニティバスなどにより、市内の交通をもっと便利にする
- ・高齢になってもつながりを持てるよう、祭りや生涯学習に参加する
- ・環境学習館などの活用により、子どもから大人まで学び続けられる環境づくり
- ・地域での交流や活動に関する情報発信
- ・祭りやイベントを通じた地域間や世代間のつながりづくり
- ・子どもの遊び場や勉強する場など、子どもたち自身の意見を聴く

《ワークショップ風景の写真を掲載します》

#### 4. 第5次総合振興計画の総括

##### (1) 基本政策ごとの評価結果

本市では、第5次総合振興計画を着実に推進するため、進行管理を行っています。基本計画に定める「政策」ごとに成果指標を設定し、その達成状況を測るとともに、「施策」ごとに位置付けた「主要事業」の達成状況についても確認し、予算や事業の実施方法に反映しています。令和6年度における成果指標達成状況は次のとおりとなっており、目標値の100%以上の達成度Aであった施策が4割近くに達する一方、目標値の25%未満の達成度Eであった施策も3割以上あり、施策の着実な推進を図るとともに、施策そのものや成果指標の見直しなどを実施しました。

##### 令和6年度の成果指標達成状況

基本政策	達成度						-	合計
	A	B	C	D	E			
I 未来の希望が輝くまちをつくる	8	0	1	0	4	0	13	
II 健康で安心して暮らせるまちをつくる	7	0	1	2	5	0	15	
III 学び合い、豊かな心を育むまちをつくる	4	0	1	1	5	0	11	
IV 地域の資源が活きるまちをつくる	3	0	2	2	4	1	12	
V 潤いのある快適なまちをつくる	0	0	1	1	1	1	4	
VI 地域活動が活性化されたまちをつくる	2	0	3	0	1	1	7	
対象事業数	24	0	9	6	20	3	62	

※A（目標値の100%以上）、B（目標値の75%以上100%未満）、C（目標値の50%以上75%未満）、D（目標値の25%以上50%未満）、E（目標値の25%未満）、-（達成度未把握）

##### (2) 課題抽出に向けた庁内ヒアリングの実施

各施策の具体的な進捗状況や今後の課題について確認するため、全所属を対象としてヒアリングを実施しました。

- ・実施期間 令和8年2月2日～2月13日
- ・主な事項 施策や主要事業の進捗状況、成果指標の達成状況、今後の展開など

### (3) 基本政策ごとの課題

#### 課題Ⅰ 未来の希望が輝くまちをつくる

若者や子育て世代が住みたい、住み続けたいと思えるまちづくりが求められています。これまで本市では、プレックス・キッズを中心とした子育て相談・支援体制の強化、保育所や学童保育所における待機児童対策などを図っており、こうした子育て支援のさらなる充実が必要です。また、グローバル化やデジタル化など、こどもを巡る環境が大きく変化する中で、新たな時代に対応する生きる力の育成が必要であり、家庭・学校・地域の連携のもと、本市の優れた教育環境を維持し、更なる向上に繋げていくことが重要です。

#### 課題Ⅱ 健康で安心して暮らせるまちをつくる

高齢化の進行に伴う福祉ニーズの増大に対しては、若い世代からの健康づくりによる健康寿命の延伸が不可欠です。あわせて、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる包括的な支援体制の構築も求められています。また、近年国内では大規模な自然災害が頻発しており、防災対策の充実が一層求められています。社会全体で孤立・孤独が問題となる中、本市においても、災害時の助け合い、犯罪や事故の起こりにくいまちづくりのために、地域における日頃からの交流や支え合いの重要性が注目されており、市民の意識醸成や地域力を高めていくことが必要です。

#### 課題Ⅲ 学び合い、豊かな心を育むまちをつくる

人生 100 年時代をより充実したものとするため、学びの機会の提供が重要となっています。総合文化会館ハストピアを拠点とした芸術・文化活動を振興するとともに、市民の多様なニーズに応じた生涯学習の充実が求められています。また、史跡黒浜貝塚など市内の歴史的遺産を保全・活用し、郷土への愛着や誇りを育み、次世代へ継承していくことが大切です。また、令和7年度にリニューアルが完了した総合市民体育館パルシーや、公園などを含むスポーツ・レクリエーション環境を有効活用するとともに、部活動の地域展開も見据え、誰もがスポーツしやすい環境づくりが求められます。国際情勢が複雑化する中で、すべての人が尊重され、相互理解を深められる地域づくりを進めていくことが必要です。

#### 課題Ⅳ 地域の資源が活きるまちをつくる

本市は、ベッドタウンとして発展してきましたが、広域交通網を活かした産業立地の可能性が広がっています。これまで高虫西部地区などにおいて、企業立地の促進や産業基盤の整備を進めており、今後も、地域の特性を踏まえた産業創出が必要です。農業については、担い手の高齢化や耕作放棄地の増加などが問題となっているため、農地の集積・集約、新たな担い手の確保などを通じて、魅力ある農業を展開していくことが重要です。その一つとして、梨などの特産品を活用し、市内外に蓮田市の魅力を発信していくことも求められます。

#### 課題Ⅴ 潤いのある快適なまちをつくる

令和7年度に環境学習館のリニューアルが完了し、地域の拠点としても期待されています。市内は黒浜沼をはじめ、豊かな水辺環境に恵まれており、こうした自然環境を保全しながら、市民の生活利便性を向上し、賑わいを生み出すような魅力ある拠点をつくるため、計画的な土地の利活用を進めることが必要です。また、高齢化が進行する中、公共交通の維持・充実が求められており、本市ではさいたま市と連携し乗り合いタクシーの導入などに取り組んでいますが、今後は、市民ニーズを踏まえつつ、地域の実情に即した地域交通の実現が求められています。

#### 課題Ⅵ 地域活動が活性化されたまちをつくる

地域のつながりが希薄化する中、地域のコミュニティづくりやまちづくりの担い手育成が重要となっています。また、ICTの著しい発展やAI技術の活用が進んでおり、これらを有効に活用しながら、市民に情報を的確に伝えていくとともに、市民の利便性向上と行政運営の効率化を図ることが必要です。さらに、道路をはじめとするインフラや公共施設などの経年化が進んでおり、計画的な維持管理や適正配置が課題となっています。持続可能な行財政運営の実現に向け、財政健全化や人材育成、多様な主体との連携など行財政改革の推進が求められます。

#### (4) まちづくりの基本的な課題

第6次総合振興計画の策定にあたっては、これからの未来をつくる子どもたちが健やかに育ち、学びを深められる環境整備を施策の柱に据え、若い世代から選ばれる地域づくりをより一層本格化させる必要があります。同時に、多様化する住民ニーズに柔軟に応え、施策の効果を最大化していくためには、DXを横断的に取り入れ、行政サービスの利便性向上と効率的な行財政運営の両立を図らなければなりません。一方で、経年化が進む公共施設やインフラについては、将来の人口規模や財政見通しに即した適正配置を検討すべき段階にあります。施設の集約化や多機能化を含むインフラの最適化は、安全・安心な市民生活を守るだけでなく、次世代へ健全な財政基盤を引き継ぐために不可欠な取組です。

このように、社会構造の変化を的確に捉え、限られた行政資源を「人への投資」と「基盤の再構築」へ戦略的に配分していくことが、これからのまちづくりにおける最優先の課題といえます。



## 第Ⅱ編 基本構想

### 【基本構想について】

- ◆ この基本構想は、現行の第5次総合振興計画基本構想、及び令和7年に実施した基礎調査・市民意識調査などを踏まえ作成しています。
- ◆ 青文字は、今後の作成となる部分などです。

## 第1章 まちの将来像とまちづくりの理念

- ◆ **資料4** まちの将来像とまちづくりの理念（3案）のとおり、市民の幸せ（ウェルビーイング）を基調とした3パターンを検討中です。
- ◆ この「第1章 まちの将来像とまちづくりの理念」は、検討結果を踏まえ、後日記載するものとします。

### 1. まちの将来像

蓮田市では、これまでも人口減少抑制政策、地域振興政策、福祉政策等に注力してきましたが、人口は緩やかに減少を続け、少子高齢化も進行しつつあります。特に、少子化は顕著となりつつあり、年間出生者数は、2018（平成30）年より300人台に落ち込んでいます。

人口減少と高齢化の中、子育てや子どもの教育環境、高齢者の生活環境にも大きな変化が生じており、経済活動や地域活動の担い手、支えあい活動の担い手の確保などが必要となっています。

蓮田市は、130万人以上の人口を有する県都・さいたま市に隣接し、大宮台地の緑、元荒川等の流れや点在する湖沼（沼）など、水と緑に恵まれ、さいたま市や東京都心への通勤利便性も高い便利なまちです。先人が遺し受け継がれる歴史文化も魅力的です。

これまで、蓮田市は、さいたま市や東京都心のベッドタウンとして発展してきましたが、蓮田スマート IC のフルインター化などを契機としつつ、地下鉄7号線蓮田延伸の実現なども見据えて更なる地域振興策を推進し、人とまちの持続可能な未来を展望していかねばならないと考えます。

この第6次総合振興計画の計画期間は、このような蓮田市の強み、魅力を存分に活かし、人口の自然動態（自然減）を可能な限り改善するとともに、社会動態（社会増）を維持・拡大して人口減少を最小限に留め、『持続可能で、未来を展望できるまち』『未来にわたって住み続けたいまち』『幸せ実感のまち』としていく期間となります。

以上のことから、蓮田市が実現を目指す将来像を次の通りとします。



## 2. まちづくりの理念

まちづくりの理念とは、市民と行政とが共有し念頭に置くべき、まちづくりの姿勢を表すものと位置付けます。この計画では、まちづくりの基本的な課題と、将来像『●●●●●●●●●●』を踏まえ、次のとおり定めます。

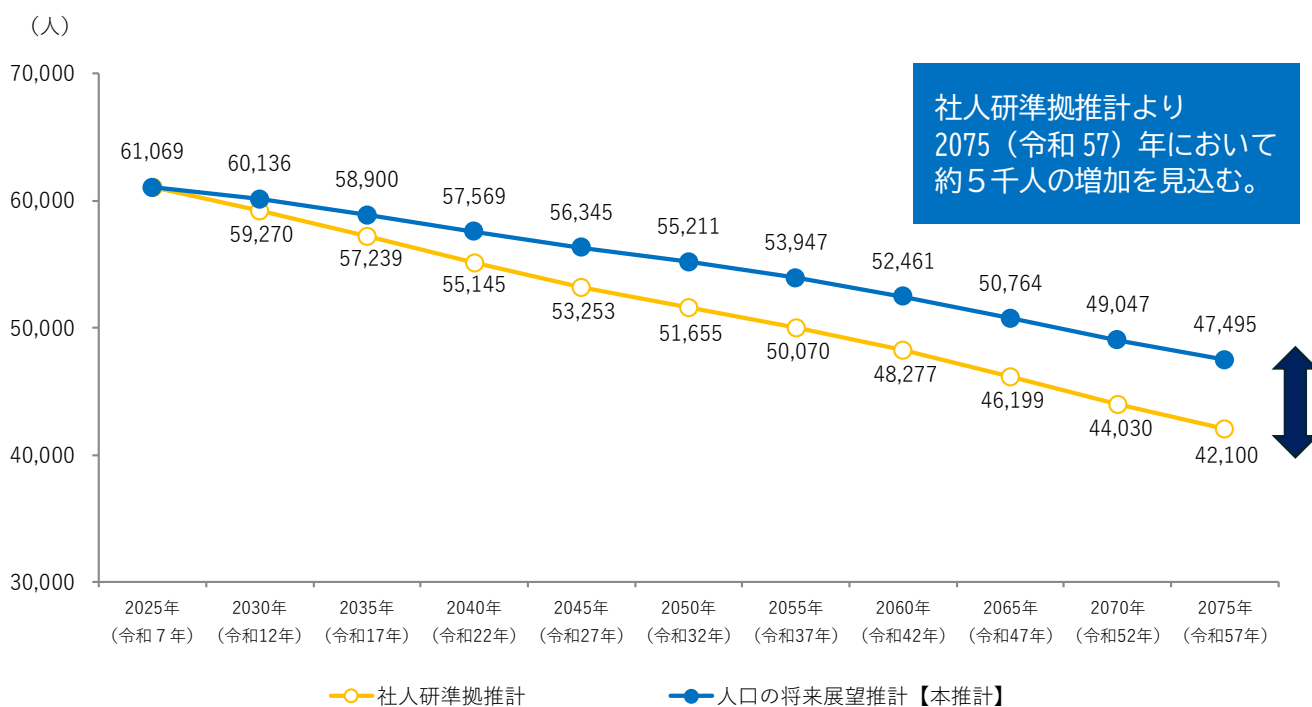
### 3. 人口の将来展望

蓮田市では、最重要課題の一つとして人口減少対策を位置づけ、総合振興計画を着実に推進し改善を目指してきました。また、横断的な施策により人口減少に歯止めをかけ、持続可能なまちづくりを目指す「蓮田市人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略」による、出生率の改善や人口の社会増実現に向けた取組を進めてきました。その結果、合計特殊出生率の改善には課題が残るものの、人口の社会増が実現されています。

人口の将来展望では、このような蓮田市人口の動向を踏まえ、2025（令和7）年4月1日の住民基本台帳人口を基準人口として、2075（令和57）年までの人口を推計しています。ここでは、近年の人口の転出入状況（社会増）が維持されるものとしたうえで、合計特殊出生率が過去10年（2005～2024）の最高値である1.34程度（1.35）まで上昇するものとしています。

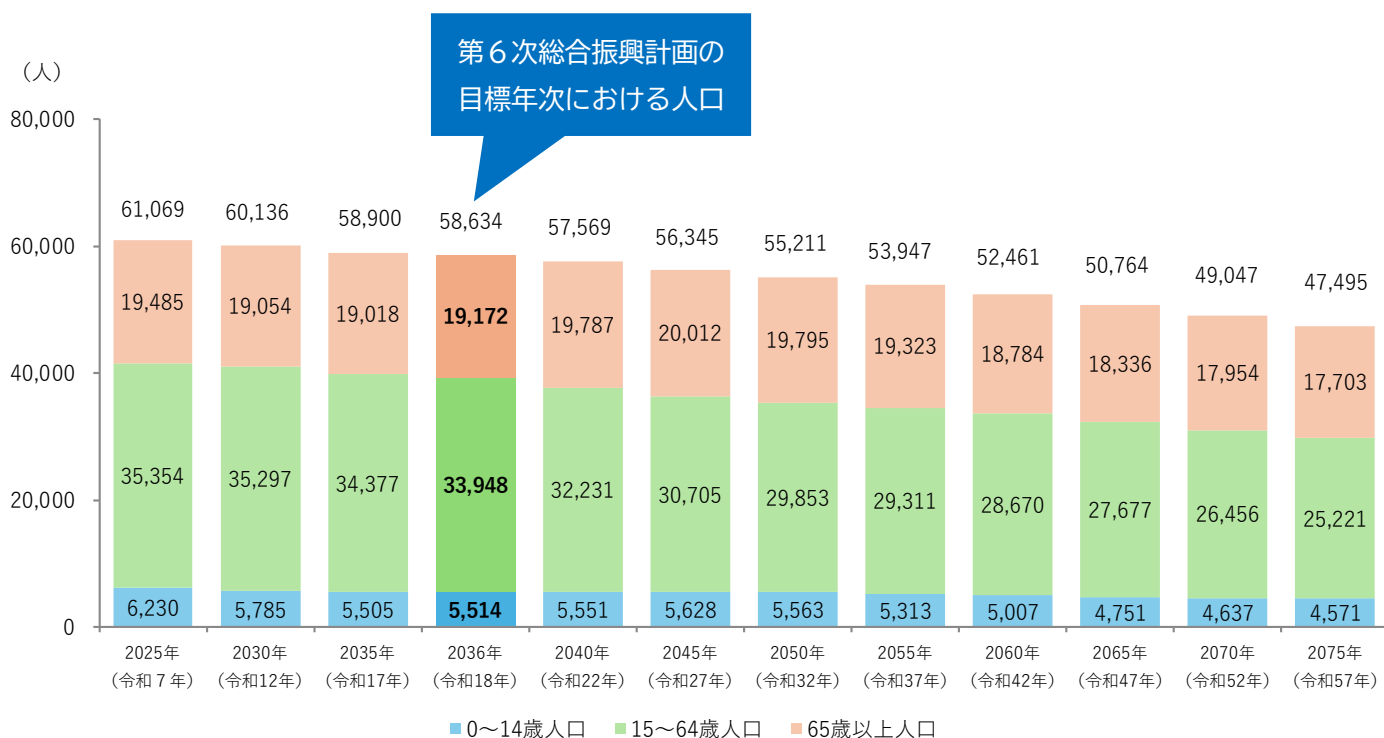
その結果、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」）推計に準拠し、基準人口のみを2025（令和7）年4月1日の本市住民基本台帳人口に置き換えた推計（以下「社人研準拠推計」）と比較して人口の減少傾向は緩やかとなります。

- ◆ 基準人口：2025（令和7）年4月1日 住民基本台帳人口 61,069人
- ◆ 仮定値
  - ①生残率：社人研が蓮田市の実績（2015～2020）から算出した固有の値
  - ②純移動率：住民基本台帳（2020～2025）から算出した値
  - ③合計特殊出生率：2045（令和27）年に1.35まで上昇
  - ④0～4歳性比：社人研が蓮田市の実績（2015～2020）から算出した固有の値



第6次総合振興計画を着実に推進することにより、若者をはじめとする市民の定住促進、人口の社会増の維持・増進、こどもを産み育てやすい環境整備を通じた合計特殊出生率の改善などを実現し、将来における人口減少を可能な限り抑制していきます。

本計画の目標年次である2036（令和18）年の総人口は約5万9,000人、2075（令和57）年の総人口は約4万7,000人と見込みます。



## 第2章 土地利用構想

第1章で定めた将来像『●●●●●●●●●●』を実現するため、それぞれの地区の特性に応じた土地利用を誘導します。

土地利用の基本方針と土地利用の基本方針図を次のとおり定め、都市計画マスタープランをはじめ、各種施策については、その整合を図ります。

### 1. 居住系ゾーン

豊かな緑と日々の生活が調和し、市民が将来にわたり愛着を持って住み続けられる良好な生活の場を形成します。特に、気候変動に伴う災害リスクの低減と防犯性の向上を図り、あらゆる世代が安全・安心かつ健康に暮らせる質の高い住環境の形成を目指します。

#### (1) 住宅地ゾーン

蓮田駅周辺の市街地においては、幹線道路や歩行者優先の空間整備により回遊性を高めるとともに、中高層住宅や商業・業務機能が複合した高密度な都市型住宅地の形成を図り、利便性の高い住環境の構築を目指します。

土地区画整理事業や宅地開発事業により整備された市街地では、戸建て住宅を中心としたゆとりある低密度な住環境の維持・保全に努めます。また、地区計画等の活用により、地域特性に応じた建築ルールを定め、将来にわたって秩序ある良好な住環境の継承に取り組みます。

#### (2) 緑住ゾーン

市街地との近接部や交通利便性の高い地域においては、既存の農地や樹林地が持つ多面的な機能（保水、防災、景観等）と調和した居住地域として位置付けます。緑豊かな環境を活かしつつ、地域生活拠点を核とした次世代に継承される環境共生型の住環境の維持・保全を図ります。

## 2. 商業系ゾーン

市民の日常生活を支えるとともに、地域経済の活性化を担う商業機能の充実を目指します。周辺の住環境と調和した施設を誘導することで、生活利便性と賑わいが両立するまちづくりを推進します。

### (1) 中心商業地ゾーン

蓮田駅を核とした周辺地域においては、鉄道利用の利便性を向上させるとともに複合的な都市機能の集積を図り、多様な人々が集い交流する、持続可能で活気ある中心市街地の形成と賑わいの創出を図ります。また、地下鉄7号線の延伸を見据え、新たな交通結節点としての機能強化や魅力ある拠点づくりを目指します。

### (2) 沿道サービスゾーン

主要道路（国道122号、県道さいたま栗橋線）の沿道においては、日々の暮らしを支える商業・サービス機能の強化を図り、周辺住宅地との調和に配慮しつつ、広域的な利便性の高いロードサイドの形成を促進します。

## 3. 工業・流通業務系ゾーン

各地域が持つ地理的優位性を最大限に活かし、持続可能な産業基盤の強化を目指した企業誘致を行うことで、多様な就業機会と雇用を創出し、地域経済が循環する活力あるまちづくりを推進します。

### 【新産業拠点の形成】

高虫西部地区においては、現在進められている土地区画整理事業を着実に推進し、住工分離を実現した次世代型の産業拠点の形成を図ります。

蓮田サービスエリア（上り線）周辺においては、高速道路に直結する立地特性を活かし、都市計画に区域を明確に定めて、地域経済の活性化に寄与する新たな産業拠点の面的形成を目指します。

### 【既存インフラを活用した地域共生の企業誘致】

根金・井沼地区及び下閨戸地区においては、既存インフラである主要道路（国道122号、県道さいたま栗橋線）沿道としての優位性を活かし、周辺環境と調和した地域の活性化に資する産業立地を誘導します。

蓮田サービスエリア（下り線）周辺においては、既存の工業団地における産業基盤機能を維持し、安定した生産環境の保持に努めます。

#### 4. 農業系ゾーン

水田や畑などの農地が持つ農作物の供給機能や保水機能等を重視し、持続可能な農業生産空間としての確立を目指します。生産基盤の整備や農地集約を図りながら、観光農園や市民農園等の整備を通じて、都市地域の住民との交流による農地の活用を推進します。

#### 5. 公園・緑地・公共公益ゾーン

公園や緑地などのオープンスペースと、近接する公共公益施設を一体的な地域資産として捉え、施設間の垣根を越えた横断的な利活用に向けた調整を進めます。豊かな緑の空間と公共機能を連携させたイベントの開催や、相互利用を促すことで、様々な世代の人が多目的に利用できる集いの空間の創出を目指します。

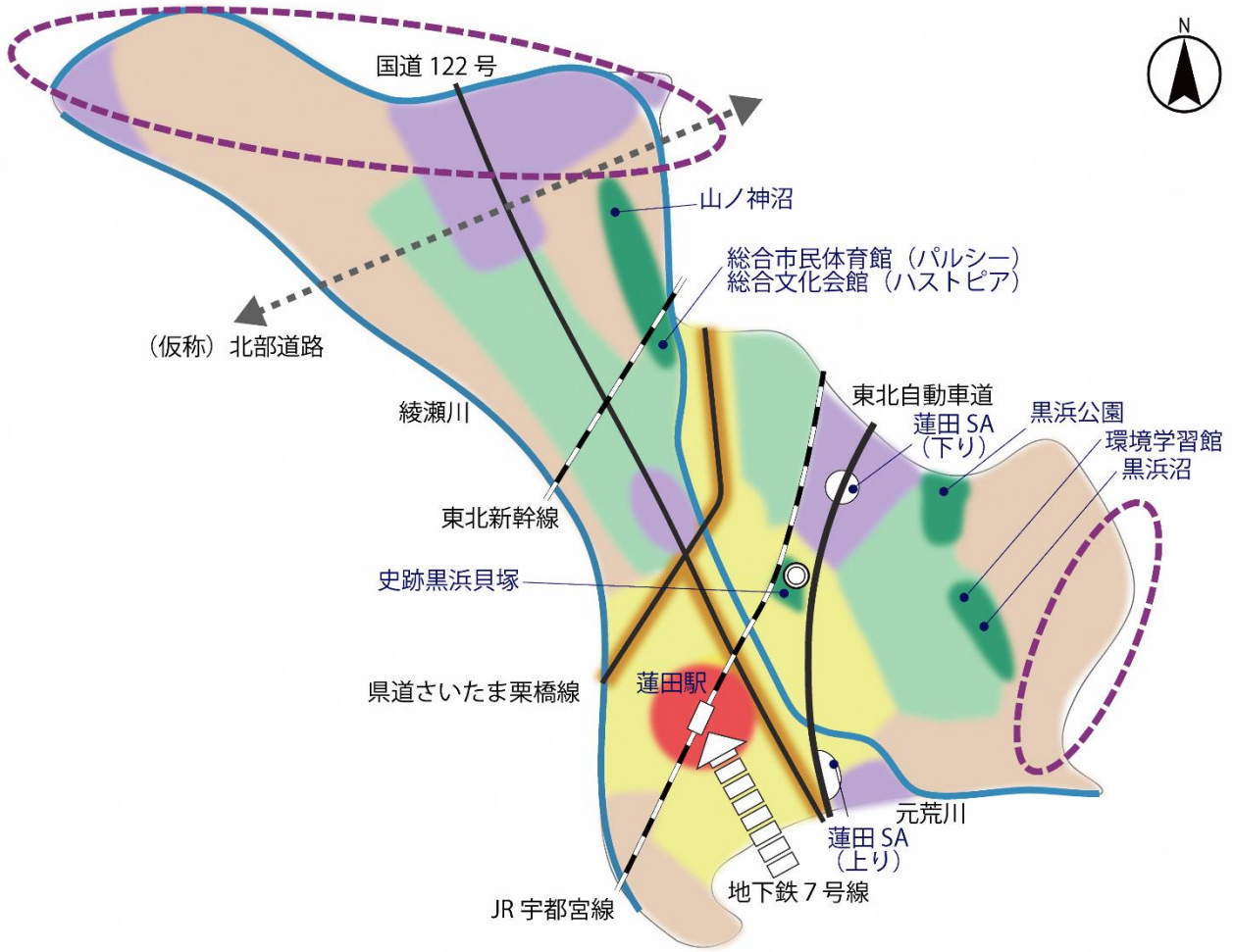
また、市役所周辺は、行政拠点として行政窓口、福祉、子育て、文化、生涯学習などの機能の集約化を進めます。

【水辺とスポーツ・文化の共創】	山ノ神沼 × 総合市民体育館・総合文化会館
【歴史遺産と行政機能の融合】	史跡黒浜貝塚 × 文化財展示館・市役所
【健やかな暮らしと世代を超えた共生】	黒浜公園 × 病院・高校・特別支援学校
【豊かな自然と学びの連動】	黒浜沼 × 環境学習館

#### 6. 産業集積エリア構想

次世代にわたって活力を維持し続けるまちの実現に向け、産業集積エリア形成の展開を見据えて、調査・研究に取り組みます。

# 【土地利用方針図】



- 住宅地ゾーン
- 緑住ゾーン
- 中心商業地ゾーン
- 沿道サービスゾーン
- 工業・流通業務系ゾーン
- 農業系ゾーン
- 公園・緑地・公共公益ゾーン
- 産業集積エリア構想
- 広域幹線道路構想
- 主要道路
- 市役所

## 第3章 基本政策

- ◆ 基本政策（行政各分野における方向性）を簡潔に掲載します。
- ◆ 基本政策の柱立てと内容は、基本計画における施策体系とともに今後検討していくこととなります。